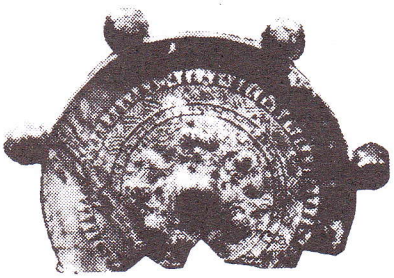
第 41 号　　平成28年 5 月28日

文化財やまと

大和町文化財保護協会発行



七鈴五獣鏡

明建神社の「門松」

会長　齋藤武生

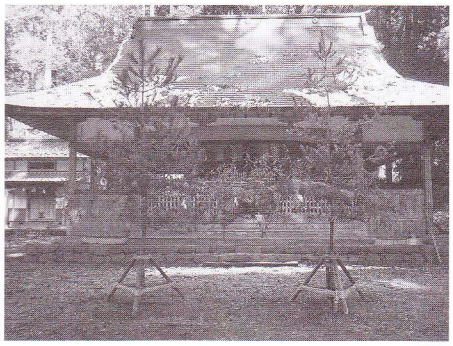
「門松は冥土の旅の一里塚　めでたくもあり　めでたくもなし」一休和尚（一三九四～一四八一）

明建神社の門松は、一般の家庭に建てられる門松と少し異なり、松・竹・しめ縄で作る誠にシンプルなものである。

使用する松は、長さ約三～四メートル、枝が五段（五段松）のものである。建て方は、長さ五〇センチメートルの木の杭（真柱）に松を結え、三本の添木で倒れないよう三方から支える。その添木を荒縄で上段は一二巻き、下段は七巻きして固定する。

一対に建てた松の下枝から二段目の枝に、その年に生えた大竹を葉をつけたまま、二本の松を繋ぐように左右に渡し、その大竹に御幣を付けた注連縄（しめ縄）を結わえて完成である。

この様な門松は、県内では見られないことから、そのルーツを調べた。



明建神社の門松

承久三年（一二二一年）東胤行が下総国（千葉県）から郡上へ入部した時に、東家の氏神の妙見菩薩を勧請して明建神社を建てたことから、そのルーツは千葉県内にあるのではないかと思われたが、同じようなものは見つけられなかった。

いろいろ調べているうちに、仙台市博物館前に明建神社と同じような門松が建っている写真を見つけた。

その写真の門松は、かって仙台城で建てられていた門松を、同博物館の倉橋真紀先生（著書「研究ノート仙台城の門松」）の指導のもとに、当時のままを再現して建てられたものであった。それ以後、毎年正月には仙台市の瑞鳳殿資料館前に建てられている。

その門松は、長さが六〇センチメートルの真柱（栗の木）に五階松を藤組で縛り、鬼打木〈おにうちき〉（橡〈くぬぎ〉の木の板や割木を三枚から一二枚、真柱の根元に巻き付け縛る木のこと）を付け、「ケイダイ」（注連縄を付けた青竹のこと）を松と松の間を繋ぐように渡して作られている。

瑞宝殿での展示の様子

昔はこの門松が、仙台城の門四二ヵ所と武家屋敷の門に建てられていた。

明建神社の門松と仙台市博物館の門松の双方を比べると、仙台城・武家屋敷では五階松とか七階松を使用している。（仙台での一般の家では三階松を使用している）

明建神社では仙台城・武家屋敷と同じように五階松を使用している。また、青竹に注連縄を付け、松と松の間に渡して取り付けることも同じである。

鬼内木の板の三枚が添え木の三本に、鬼内木の一二枚が荒縄で巻く数の一二巻きに変わったが、五階松・真柱・鬼内木・ケイダイといった要素は類似していることが分かる。

東家は関東の武士であることから、東家の本家で建てられていた門松と同じものを明建神社でも立てていたのではないかと推測される。

次に、参考までに、門松の由来等について少し触れてみる。

平安時代の貴族達が、正月の初めの子（ね）の日に、小松を

七鈴五獣鏡

岐阜県指定重要文化財

時代　六世紀中ごろ（約一五〇〇年前）

管理者　徳永多賀神社

鏡は、写真のように、全体の四分の一が欠損している。白銅製で、鏡面は光沢のある灰色を呈しており、文様のある面は外から鋸刃文帯、連続三角形文帯、偽銘帯があり、その内側に小さな五つに乳と形状不明な五獣を配している。直径一一・四センチ、周囲に七つの鈴があったが、そのうち三個が欠けている。鈴子は小石で、振るとかすかな音を立てる。

根ごと堀り取ってきて飾り、千代を祝った。松は一年中、葉を落とさない常緑樹であることから、長寿のシンボルとされていた。また、若葉を料理の食材に使い、長寿を願った。松は歳神様が宿る神聖な木として崇められた。

戦国時代になると、注連縄が一般に飾られるようになった。注連縄とはその区画が神聖な場所であることを示すもので、不浄なものが入らないようにする役目があり、門松と同様に歳神様を迎え入れる清浄な場所で、神霊が下界に降りる目標物と考えられていた。

竹は、真っ直ぐに節目を作り成長する。その姿は人生の節目にも例えられ、強くたくましくしなやかな竹の様に生きよとの意味がある。

その竹の切り口には、斜めに切る「そぎ」と真横に切る「寸同」がある。

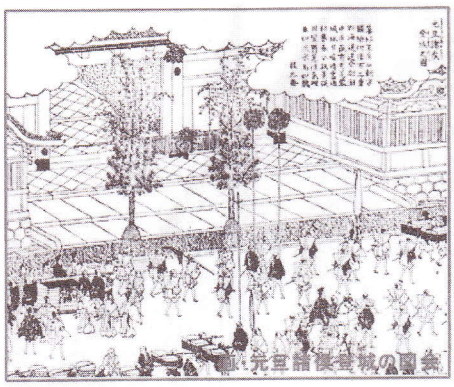
「そぎ」は、節の所で切ると笑っているようになり、切る箇所により切り口の表情が変わる。

「そぎ」に切るようになったのは、徳川家康が三方ヶ原の戦いで武田信玄に敗北したとき、竹を武田家の首に見立てて斜めに切り落とし「次は武田を切る」とその決意を込めたのが由来とされている。

梅は、一年で最も早く花が咲き実をつけることから縁起が良い。南天は、難を転じる。葉ボタンは、幾重にも重なり合う葉が「吉事を重ねる」とされる。

私は、明建神社の氏子総代を務めていることから、毎年この門松を建てている。門松の松はどこの山でも採って良いとは言われているが、このご時世、近隣の山で二本揃った五段松を探して採るのには難儀している。

今年も一二月には、明建神社に門松を建てる。初詣の折に歴史ある門松を観て下されば幸いである。



▶元旦諸候登城の絵図

寺院をまた訪ねたくなる私の秘訣
～仏像の見方を通して～

大井正明

平成二七年度文化財やまと四〇号～仏像の見方を通して～で種類別に如来、菩薩、明王、天部、声聞の紹介をしました。

今回はその中の如来、菩薩の見分け方について学びたいと思います。

京都の広隆寺や千本釈迦堂の中に展示されている各種の仏像を拝観して、この仏像は阿弥陀如来像だ、この仏像は釈迦如来像だ、この仏像は聖観世音菩薩像でありその隣は如意輪観世音菩薩像だと答えられる方は、仏像を見分けられる、かなりの基礎知識のある方といえます。

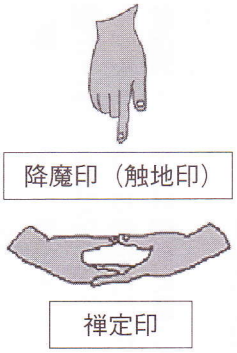
如来五種については各寺院の御本尊によります。しかし、西国三十三所観音寺の御本尊は六種の観世音菩薩がほとんどで、如来となると、頭、顔だけでは、大日如来以外は見分ける事は困難であります。

それには下記の一から四までの見分け方により判断することができます。

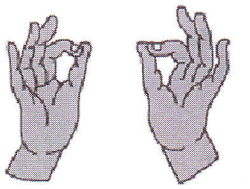
一　宗派による見分け方
二　眷属（けんぞく）脇侍（きょうじ）本尊を守る仏
三　印相　手や指のしぐさ
四　装身具による見方

○釈迦如来
宗派　天台宗、曹洞宗、臨済宗、
脇侍　普賢菩薩と文殊菩薩、
　　薬王菩薩と薬上菩薩
印相　釈迦如来の五印

釈迦如来の五印



○阿弥陀如来
宗派　浄土真宗、浄土宗、天台宗
脇侍　観世音菩薩と勢至菩薩


説法印（転法輪印）

	上生（上品）	中生（中品）	下生（下品）
上品（上生）【定印】	上品上生（〃）	上品中生（中品上生）	上品下生（下品上生）
中品（中生）【説法印】	中品上生（上品中生）	中品中生（〃）	中品下生（下品中生）
下品（下生）【来迎印】	下品上生（上品下生）	下品中生（中品下生）	下品下生（〃）

※　（　）内諸説あり。

印相　阿弥陀如来の九品来迎印

○薬師如来
宗派　華厳宗、法相宗、天台宗
脇侍　月光菩薩と日光菩薩
印相　右手の五指をつけたまま

開いて、薬指を少し前に出しています。左手は平らにして薬壷を持っています。何も持っていない場合は右手を見ます。

○大日如来

宗派　真言宗、五重の塔の御本尊はほとんどが大日如来です。

脇侍　胎蔵界　宝とう、開敷華王

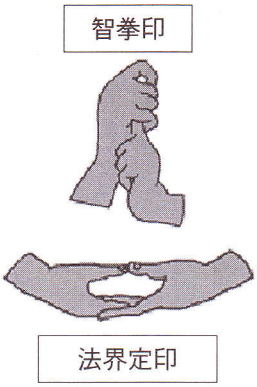
　　金剛界　阿弥陀、宝生

印相　法界定印、胎蔵界

　　智拳印、金剛界

　如来では特徴的なのは宝冠をかぶり、腕や首、足に飾りをつけています。ほぼ観世音菩薩に近く二種の印相により見分けます。

（大日如来の二印）



○毘ル舎那如来

宗派　律宗、華厳宗

　　奈良の大仏

印相　右手の中指を少し折っています。

脇侍　光背に沢山の仏を付けています。

　以上が基本的な如来の見分け方法です。しかし宗派は違っていても阿弥陀如来を御本尊としている宗派もあります。

　次に観世音菩薩の六種について見分け方を学びましょう。

○聖観世音菩薩

　高く結い上げた髪であり、何も持たないときは右手、左手どちらかの親指と人指し指で丸を描いているお姿です。または、左手に蓮のつぼみか水瓶を持つお姿で、おだやかで慈愛に満ちた仏さまです。

有名なのは百済観音像（奈良法隆寺、飛鳥時代）や聖観音像（奈良薬師寺、白鳳時代）です。

○千手観世音菩薩

　千手観音は千手千眼観音とも呼ばれています。本体より千本の手が出ており、いろいろの法具を持っています。千の手が一時に多くの動作をなし、その千の手についている千の眼が一切の事を見通しています。

　最も有名な像は、大阪府藤井寺のわが国最古の千手観世音菩薩（天平時代）です。

　京都三十三間堂には鎌倉時代を代表する坐像千手観音菩薩（湛慶作）があります。

○十一面観世音菩薩

　観音の変化身の一つで頭上に十一の化仏を頂く観音です。

有名なのは滋賀県高月町渡岸寺向源寺の十一面観世音菩薩（平安前期）で、わが国における現存十一面観音像の中でも最高の傑作と言われています。

　次に奈良聖林寺の十一面観世音菩薩です。天平彫刻代表作と言われています。

○馬頭観世音菩薩

　馬頭観音は馬頭大士、馬頭明王ともよばれています。頭部の頂上に馬頭を頂くのが特色で、馬が草を食べつくすように、悪を取り除く事を本願とする菩薩であります。観音の中では唯一憤怒相を表しています。

　福岡県太宰府市、観世音寺の馬頭観世音菩薩（藤原時代）があります。

　次に京都府舞鶴市、松尾寺、西国三十三所第二十九番で本尊が馬頭観音と言うのはここだけです。

○准胝観世音菩薩

　真言宗では准胝観世音菩薩と言い、天台宗では不空羂索観音と言われ、像容は一面三目八臂〈特長として眼が三つあります。〉

　有名なのは奈良東大寺法華堂（三月堂）の菩薩です。

○如意輪観世音菩薩

　如意輪観音の初期の姿は腕が二本で片足を垂下したお姿であったが、よく見かけるのは右手の手のひらを頬につけ右ひざを立てている姿が基本的であります。

　時代により、腕が左右三本であったり足を垂下しないものも見ることがあります。

　有名なのは奈良岡寺、大阪観心寺金堂の菩薩像で、両寺とも平安前期のものです。

　これまでに五如来と六観世音菩薩の主な見分け方について述べました。仏像は信仰心から拝観する人があり、美術的観点から訪寺する人もあると思います。

　いずれにしても数多くの仏像を拝観することにより、作品の時代、種別、見分け方、装身具の品名もおのずと修得することができます。

　当初に記した西国三十三所観音霊場は一番は和歌山県那知山青岸渡寺から始まり、最終三十三番は岐阜県谷汲山、華厳寺であり、二府五県を巡る観音霊場であります。

　人々のあつい信仰に支えられた観音霊場は、大和町に二ヶ所もあり、ひとつは剣、白雲山観音堂への参道に立つ、市指定重要文化財の石仏です。

　二ヶ所めは牧の篠脇城登山道に立つ石仏で、二ヶ所ともに三十三石仏が立っており、遠方まで参拝に行かなくても近くでお参りができます。

参考資料

日本一〇〇の仏像
（日本交通公社出版）
仏像の見方（東洋文化学院）

春季日帰り研修

『浜名湖北の　古刹を訪ねて』

河合利雄

四月八日（水）は、文化財旅行の日。二・三日前から当日の天候が気になり、テレビの週間天気予報に目が行く。

当日は、生憎「寒の戻り」で寒くて雨とのこと「最悪だ　折角の旅行なのに」と残念に思う。

七時出発とのことで、集合場所の大和農協へ急いだ。一番遅くなってしまったが、皆さんの明るい顔に迎えられ「天候に曇り・寒風なし。先ずは喜ばなくては」と、車上の人となる。

三浦泰治氏とご一緒させてもらい歓談しているうちに、車は計画通り目的地を目指して走る。

「歴史ロマンに包まれた浜名湖北の古刹を訪ねる」ことが主たるテーマで、浜名湖遊覧が加えられた今度の旅行、以下その概要と印象を略記したい。

【一】方広寺（ほうこうじ）

東海屈指の名刹、臨済宗の大本山というだけあって、山岡鉄斎書額「深王山（じんおうざん）」の示す如く、本堂の威容、六〇ヘクタールの広大な境内に圧倒される。俗世界を離れた幽玄な世界に驚かされた。三重の塔や六〇余棟の他、渓流にかかる赤い立橋が目を引いた。

広方寺　全景

祀られている半僧坊大権現、釈迦三尊像の他、各所に見られる五百羅漢のユーモラスな顔が印象に残った。いづれにしても、心安まる雰囲気に満ちた寺で、学生や企業の研修道場として利用もされているのも、頷ける。

【二】龍潭寺（りょうたんじ）

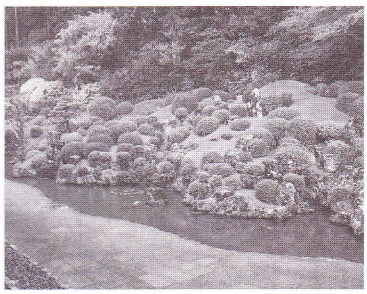
臨済宗の古刹で、宗良親王井伊家の菩提寺で、本尊は虚空蔵菩薩である。

建物は江戸時代そのままのたたずまいを残して点在していた。

左甚五郎作の龍の彫刻

堂内「鶯張り」の廊下を左甚五郎作の龍の彫刻を見て、本堂裏の庭園に出る。

小堀遠州作のこの庭園は、三つの築山に、東西に「心字池」が流れ、数多くの石組みによる枯滝に魅了された。



小堀遠州作の庭園

昼食は、舘山寺さかな家で、早朝出発の空腹を満たし、満足してショッピングを楽しんだ。

昼食後の浜名湖遊覧は、悪天候のため三〇分に短縮された。波穏やかで、移りゆく周囲の景色のよさを堪能した。東名高速道路の橋の遠望が印象的だった。

【三】摩訶耶寺（まかやじ）

高野山真言宗の古刹で、平安時代の御仏に出会える寺として有名。本尊は千二百年を経た「千手観音像」。「子育て観音」として、永く多くの人々に信仰されてきた。退色が進んではいたが唇の朱色が鮮やかに残っているのが印象的だった。更に、花鳥などが極彩色で描かれたもの、鮮明な色で残っているのもあり驚かされた。

摩訶耶寺　本堂前にて

ご真言は仏によって違うとのこと、秘仏厄除観世音菩薩の場合は「おんあみりた　ていせいからうん」と唱えお祈りするとか、浄土真宗は南無阿弥陀佛の念仏で簡単なものと思った。また、庭園は鎌倉時代初期のものとしてその力強い石組みが特徴で、周りの木々はもちろん、遠くの山々まで含めたスケールの大きさを感じさせるものであった。

摩訶耶寺　庭園

予定通りの見学を終えて二七名は無事帰路に就いた。旅の疲れとバスの適度の揺れで、心地よい夢路を辿る。途中、明日の好天を約束するような美しい夕焼けに出会う。

「一日ズレればもっとよかったのに」と欲が出る。たくさんの土産物と土産話を成果に今年の春の文化財研修旅行は終わった。

秋季日帰り研修

『奈良県宇陀と三重県伊賀の歴史と文化を訪ねて』

山田正代

秋の日帰り研修は一一月一二日（木）に行われ、三重県伊賀流の里と「女人高野」室生寺の拝観をした。当日は、一一月とは言え寒くもなく気持ちのよい天候に恵まれ、総勢二八名で出発した。私たち神路組は毎回バスの最後列をとるため、わざわざ始発のJA大和支店前へ集まるようにしている。まるで子どもの席取りのようであるが、毎回その行為を楽しんでいる。

【一】三重県伊賀の里

伊賀といえば忍者、くノ一などをまず思い出す。伊賀の里では、伊賀流忍者博物館を見学した。

外観は、一見何の変哲もない普通の茅葺き（かやぶき）の農家だが、家の内部には「どんでん返し」や「抜け道」、「隠し戸」などの仕掛けやからくりを備えており、忍者装束のスタッフの実演を楽しむことができた。

忍者の実演

「忍術」は戦いを避けて、お互いに平和に生きるための技術や知識を集めたもので、戦うことが目的でないことを、今回の見聞で改めて知ることができた。

忍者が使った用具の展示

【二】室生寺（むろうじ）

奈良県宇陀の室生寺は、「女人高野」の名で知られている古刹である。道中バスは、かなり深い山の中をくねくねと進み、途中集落らしきものも全く見られない。やがて旅館や店が立ち並ぶ門前町が見えてきた。その中を進み、室生川にかかる朱塗りの太鼓橋を対岸まで渡りきると、美しい紅葉に迎えられ、表門をくぐるとそこは全くの別世界が広がった。

余談ではあるが、太鼓橋を渡っているとき、室生川は水量も少ないこともあり、大小様々な石や砂地が鮮明に見えた。私たちの一人が、砂の上に無数の足跡を発見し「あれは何だろう」ということになった。そこでの結論は「鹿」ということになり、一応納得した。

「さすが郡上の人間、目のつけどころが違う」ということで、一同太鼓橋の上で大笑いをしてしまった。いつもは予習などしない私ですが、今回はなぜか興味を強く持ち、金堂、弥勒堂（みろくどう）灌頂堂（かんじょうどう）五重の塔などについての知識を少しは頭に入れて、この旅に出かけていた。

灌頂堂（本堂）

金堂へ向かう鎧坂（よろいざか）を歩くとき、石の階段脇に多くのシャクナゲが生い茂っていることに気づいた。その佇まいは、あたかもこれから迎える雪の季節に備えるかのようにひっそりとしていた。

調べたところによると、通常市街地の花屋の店頭に並ぶのはほとんどセイヨウシャクナゲらしいが、室生寺のものはすべて日本産のホンシャクナゲだということである。

坂を上りきると、いよいよ金堂、弥勒堂、そして灌頂堂（本堂）の威容が見えてくる。いずれも貴重な文化財である。それら建物の内部には千年以上も前に作られた仏像がやさしい表情で迎えてくれて、平安時代や鎌倉時代に思いを馳せた。

旅の前に、写真家土門拳の釈迦如来坐像（国宝、弥勒堂）の横顔の写真を見た。その作品は「虚空を見つめる目、明瞭な鼻、意志的な口元、仏像の霊的な力をあらわした忘れがたい作品だ。この像くらい利口で頭のいい顔をした、そして、天下第一の美男の仏像はなかった」と絶賛している。私は、この仏像を目の当たりにして、ゆったりとした量感をもつ像が平安時代に作られたことに何とも言えない感動を覚えた。

そのあと、奈良～平安時代に作られ、現存する中で最も小さく優美でもあると言われる国宝の五重の塔に歩を進めた。

五重の塔前での記念写真

この塔は台風の被害を受けている。平成一〇年の台風による風で、脇にあった樹齢六五〇年程の杉の大木が倒れかかり、塔の屋根のひさしを上から下までバリバリと壊してしまったのである。私はこの原稿を書いているとき、たまたまこの屋根の修復工事を手掛けた松田敏行氏の著作「室生寺五重塔一二〇〇年の生命」と出会い、早速購入して一気に読んだ。

私は、時間の都合上どうしても行くことができなかった奥の院、お大師さん（弘法大師）の御影堂に参拝したいと思った。しかし、それはいつかの楽しみにしたい。

私にとって、室生寺千三百有余年の時を見守り続けてくれた仏像や、慎ましく優美にたたずむ建物に触れた今回の旅は、心が癒され、そして、心に残る秋の旅となった。

文芸欄

俳句

椿

春寒し文字も言葉も忘れゆく
北窓もようやく芽木の明りかな
明日は咲く　桜の下に　登校す
遠くにもわが頭上にも初音かな
落椿鯉の口づけ一度きり

筧　明代

鶯

笹鳴きの声の移れど藪深し
前山のまだ整わぬ初音聞く
かたまりて草出るすきなし牡丹の芽
赤椿矢鱈に多き前釦
鶯の谷渡り聞く好日かな

遠藤　富貴子

山里に住み

ちらほらと明建さくら人を呼ぶ
栗巣川アマゴ放流川鵜舞う
鮎育つ農業遺産の長良川
山里のタムシバの咲く日和かな
　タムシバ＝辛夷のなかま
川沿いにつくつく伸びる土筆あさ

山内　敏子

短歌

私の部屋が欲しい

マイナンバー流れに乗れず老いの身は風強き日に恐れとなれり
寒暖の移り激しき冬さなか蕾は咲くを迷いておりぬ
意の如くマウス動かぬもどかしさおりしも重力波のニュース
八時間かけて豆煮る土井さんのレシピふくふく豆煮えあがる
大声で「私の部屋が欲しいの」と八才宣言元日の朝

青木　ユリ子

楽茶碗

井俣初枝

ねがわくは外にも連れだち石地蔵触れもさせたし五月の風に
建立は種の居座るマイホーム己が心の虫動き出す
まろやかに千の泡たつ一服の黒楽茶碗手びねりのぬくみ
ロボットになりシンデレラの城となり箱は魔法の夢の工場
朝茶のむ二人に孫らわり込みて四人は四人の空気を放つ

恵みの水

山内敏子

夏山に抱かれ映える雪解けの里もうるおす白水の滝
山女住む阿弥陀ヶ滝の残雪に熊に用心腰に鈴つけ
新緑の長滝神社神々の延命の水病む夫に汲む
深山より御手洗いの滝神の滝
　友とより道心も清めて
神の森円空の里釜ヶ滝
　こくこくと湧く冷水を飲む

小浜

大野紀子

文化財研修旅行も久しくて顔ぶれ新たなり浦島太郎
文化財巡りは小浜明通寺雨が桜のときをはづせり
小槌もて迎ふる社長の赤銅着焼きさば鯖にさば缶買ひぬ
イメージをふくらませつつ研ぎし箸とどかぬ思ひムジャ〳〵模様
鳳凰の羽根を残せし羽賀寺の張りある女人の声よどみなく

この郷

石神堯生

蕗の薹蜜吸ふ虫の二つ三つ「ごめんなせえよ」と声かけ摘み取る
宮森の節分草を見尽くしてズボンに付きし草の実払ふ
芝桜・木瓜と咲き継ぐ寒の庭蒲公英一輪恥ずかしげに咲く
この郷の緑の空気バリバリと吸ひて百まで母は生きたり
耳鳴りの母病みし年近づきて我また近ごろ耳鳴り覚ゆる

平成27年度　事業報告書

四月　八日（水）　春季日帰り研修
（歴史ロマンに包まれた浜名湖北の古刹を訪ねて）参加者二七名
「文化財やまと」四〇号編集委員会　原稿の進捗状況の確認
二三日（木）　第一回郡上市文化財保護協議会理事会（二七年度諸計画等）
二四日（金）　第一回執行部会（大和庁舎三〇二会議室）
五月　一日（金）　新年度への取り組み
平成二七年度事業計画・予算案について
一四日（木）　第一回役員会（大和庁舎三〇三会議室）
平成二七年度への取り組みについて
「文化財やまと」第四十号最終編集会議
二九日（水）　平成二七年度総会（大和庁舎　防災研修室）
①平成二六年度事業・決算報告　②平成二七年度事業・予算の承認
③役員の交代について　④会員拡大への取り組みについて
⑤講話「凌霜隊と凌霜塾運動について」佐藤光一氏
会報「文化財やまと」四十号発刊（発行部数二〇〇部）
六月一七日（水）　第二回執行部会
七月一五日（木）　第二回役員会（奉仕作業への取り組みについて）
一七日（金）　第二回郡上市文化財保護協議会理事会（文化財愛護標柱について）
二五日（土）　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃（剣上地区参加）
八月　七日（金）　七日祭・薪能
九月　四日（金）　研修部会（秋季日帰り研修について）
十四日（月）　第三回執行部会（秋季日帰り研修について）
三〇日（水）　第三回役員会（平成二七年度　秋季日帰り研修の計画・実施について）
一〇月二〇日（火）　西宝寺および金剣神社文化財標柱立替
一一月一一日（水）　郡上市文化財保護協議会「市内文化財めぐり」
（於：美並町　星の宮神社）
一二日（木）　秋季日帰り研修
（晩秋の奈良・宇陀の古刹を訪ねて室生寺と伊賀の里へ）
参加者二八名
二六日（木）　第四回執行部会
一二月一二日（土）　第四回役員会（事業・会計中間報告、当面の課題について、懇親会）
二月一二日（金）　研修部会（平成二八年度春季日帰り研修の計画）
一九日（金）　第五回執行部会（平成二八年度春季日帰り研修の計画）
二六日（金）　第五回役員会（平成二八年度春季日帰り研修、事業・会計報告）
三月一六日（水）　文化財やまと編集会議

平成28年度　事業計画（案）

四月　七日（木）　春季日帰り研修
（若狭小浜の歴史と文化を訪ねて）参加者三三名
二四日（日）　高鷲開拓記念館開館式典
五月　九日（月）　第一回執行部会（大和庁舎三〇二会議室）
新年度への取り組み
平成二八年度事業計画・予算案について
「文化財やまと」四一号編集会議
一八日（水）　第一回役員会（大和庁舎三〇一会議室）
平成二八年度への取り組みについて
一八日（水）　第一回郡上市文化財保護協議会理事会（平成二八年度諸計画等）
二八日（土）　平成二八年度総会（大和生涯学習センター）
①平成二七年度事業・決算報告
②平成二八年度事業・予算の承認
③ホームページについて
④記念講演「全国に散らばった千葉一族」
千葉氏研究家・建長寺調査員　鈴木　佐（たすく）氏
会報「文化財やまと」四一号発刊（発行部数二五〇部）
六月　下旬　郷土の歴史探究（万場地区）
七月　五日（火）　第二回執行部会
一四日（木）　第二回役員会（奉仕作業への取り組みについて）
中旬　第二回郡上市文化財保護協議会理事会（文化財愛護標柱について）
三十日（土）　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃（剣上地区参加）
八月　七日（日）　七日祭・薪能
二〇～二一　千葉氏サミット参加
九月　六日（火）　研修部会（秋季日帰り研修について）
一三日（火）　第三回執行部会（秋季日帰り研修について）
二七日（火）　第三回役員会（平成二八年度　秋季日帰り研修の計画・実施について）
一一月　初旬　秋季日帰り研修
中旬　郡上市文化財保護協議会「市内文化財めぐり」
二九日（火）　第四回執行部会
一二月一〇日（土）　第四回役員会（事業・会計中間報告、当面の課題について、懇親会）
二月　九日（木）　研修部会（平成二九年度春季日帰り研修の計画）
一六日（木）　第五回執行部会（平成二九年度春季日帰り研修の計画）
二八日（火）　第五回役員会（平成二九年度春季日帰り研修、事業・会計報告）
三月一六日（木）　「文化財やまと」四二号編集会議
下旬　第三回郡上市文化財保護協議会理事会

会員名簿（順不同）

平成28年5月現在

● 顧問		
籏　勝美	(剣)	88－2031
日置敏明	(大間見)	88－2254
■ 剣		
田中和久	(理事)	88－2200
田中康久		88－2200
森前登志子		88－3479
小池祐二		88－4064
小池圭子		88－4064
河合　恒	(理事)	88－2358
河合　尚		88－2304
日置智夫		88－2730
田代全廣		88－3835
田代寿子		88－3835
加藤典子		88－3687
河合利雄	(理事)	88－3520
加藤文蔵		88－2802
佐藤光一	(名誉会長)	88－3201
佐藤八重子		88－3201
山内　博		88－2886
山内悦子		88－2886
村瀬喜八		88－2128
村瀬方彦		88－2008
日置武雄		88－2303
■大間見		
大野一道	(理事)	88－2230
大野紀子		88－2230
青木ユリ子		88－3477
村井紀幸	(理事)	88－2323
池田充彦	(理事)	88－2796
小野江　勉		88－2725
清水一作		88－3086
藤代順行		88－3060
松井賢雄	(理事)	88－3991
坪井由佳子		88－3990
■万　場		
桑田守夫	(理事)	88－2514
石神堯生		88－2413
畑中真智子		88－2441
稲葉和巳		88－2503
黒岩弘己		88－2458
桑田洋一		88－2414
青地正男		88－2447
大井正明	(理事)	88－2894
井俣初枝		88－2758
筧　明代		88－2532
大井峰雄		88－2893
籏　清子	(理事)	88－4170
大中登志枝		88－3624
■徳　永		
細江幸久	(書記)	88－4157
山内孝一		88－2616
渡辺睦子	(理事)	88－2076
遠藤賢逸		88－4141
遠藤富貴子		88－4141
村瀬弥治郎		88－2602
山内敏子		88－2120
■神　路		
山田正代	(理事)	88－2114
臼田浄円		88－3461
羽生　清		88－2271
山田味代子		88－2844
山田敬子		88－2336
臼田金市		88－3883
臼田路子		88－3883
野田加奈枝		88－3460
山田幸子		88－2693
■ 牧		
齋藤武生	(会長)	88－3922
齋藤純子		88－3922
滝日一正		88－3064
松森幹男		88－3919
遠藤伝司	(監事)	88－3934
日置光一		88－3001
瀧日千代美		88－3059
三浦泰治	(理事)	88－9080
三浦愛子		88－9080
粟飯原明子		88－2362
日置人司		88－2662
田口勇治	(理事)	88－3950
遠藤高真		88－2890
野田嘉明		88－3043
金子政子		88－3426
早瀬ふみ子		88－3327
■栗　巣		
筧　政之助	(理事)	88－4031
島崎増造	(監事)	88－2236
野田恵光		88－4027
増田洋子		88－4041
■古　道		
細川　優	(理事)	88－2861
清水克巳		88－2862
金子徳彦	(副会長)	88－3063
松井清治		88－3118
遠藤賢雄		88－3983
■名皿部		
佐尾チドリ	(理事)	88－3544
有代眞一	(理事)	88－3791
■落　部		
常平　毅	(副会長)	88－3837
常平真由美		88－3837
本川喜代士		88－3833
本川清子		88－3833
柴垣　諭		88－3239
柴垣香久子		88－3239
小島与三		88－3814
■ 島		
奥田昌明		88－2520
森藤雅毅	(理事)	88－2684
奥田弘親		88－2431
木島　清		88－3304
森藤龍史		88－2154
和田平八郎		88－4324
森　憲司	(会計)	88－2554
田中　篤		88－2792
山田長次		88－3648
雉野尚子		88－3564

正会員	92名
家族会員	13名
合計	105名

◆◆◆ 平成27年度 決算報告書 ◆◆◆

（収入の部）　（単位：円）

項目	決算額	摘要
前年度繰越金	6,089	平成26年度より
会員会費	191,000	正会員2,000円×89名 家族会員1,000円×13名
助成金	81,000	郡上市より
雑収入	12	預金利息
合計	278,101	

（支出の部）　（単位：円）

項目	決算額	摘要
総会費	3,348	お茶　等
会議費	8,576	執行部会 運営各部会 役員会
会議費小計	**11,924**	
会報発行費	56,160	会報「文化財やまと40号」 200部
ホームページ制作費	14,000	大和町文化財保護協会 ホームページ
奉仕活動費	9,798	文化財清掃奉仕作業 傷害保険
文化財保護費	25,064	七日祭・赤保木祭 文化 標柱設置
研修費	105,694	春季・秋季日帰り研修補助 役員研修
事業費小計	**210,716**	
消耗品費・事務費	4,980	用紙代・印刷代 等
通信費	9,939	はがき・切手 送料
事務局費小計	**14,919**	
負担金	20,000	市協議会へ
補助費	20,000	「史苑やまと」発行補助
次年度繰越金	542	
合計	**278,101**	

◆◆◆ 平成28年度　予算（案）◆◆◆

（収入の部）　（単位：円）

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	542	平成27年度より
会員会費	227,000	正会員 92名 家族会員 13名 特別会員　賛助会員
助成金	81,000	郡上市より
雑収入	458	預金利息 等
合計	309,000	

（支出の部）　（単位：円）

項目	予算額	摘要
総会費	25,000	感謝状贈呈　記念講演
会議費	10,000	執行部会 運営各部会 役員会
会議費小計	**35,000**	
会報発行費	60,000	会報「文化財やまと41号」 250部
ホームページ運営費	30,000	ホームページの公開
奉仕活動費	10,000	文化財清掃奉仕作業 傷害共済
文化財保護費	25,000	七日祭・赤保木祭 文化財標柱設置
研修費	90,000	春季・秋季日帰り研修補助 役員研修
記念事業積立金	10,000	
事業費小計	**225,000**	
消耗品・事務費	5,000	用紙代・印刷代 等
通信費	10,000	はがき・切手 送料
事務局費小計	**15,000**	
負担金	20,000	市協議会へ
予備費	14,000	
合計	**309,000**	

平成27年度の歳入・歳出処理について監査を行った結果、適正に処理されていました。

平成28年5月9日

監事　島崎増造　　遠藤伝司

編集後記

今年三月一四日から熊本では大地震が続き、多くの方々が被災されました。今もなお避難生活を余儀なくされている方々のことを思うと心が痛みます。

また、この震災では熊本城を始めとする多くの歴史的建造物が損壊しており、文化財を守り伝えることの難しさを痛感させられます。

さて、本号の記事の中で、齋藤会長からは明建神社の「門松」についてご報告いただきました。東国にルーツがあったとは大発見であり、東家と明建神社の繋がりを再確認するものです。

大井氏からは四〇号に引き続いて、如来や菩薩像の見分け方について詳しくご教授いただきました。

春季秋季日帰り研修の紀行文は、読み返す度にあのときの感動が思い起こされます。文芸欄等毎回寄稿してくださる皆様に深く感謝申し上げます。では、「文化財やまと」四一号をじっくりとお楽しみください。

（幸久）

「文化財やまと」第四十一号　平成二十八年五月二十八日発行　発行者／大和町文化財保護協会　代表者／齋藤武生　印刷者／白鳥印刷